

家庭教育企業出前講座

■株式会社両備システムズ

日 時：令和6年8月19日（月）10:00～11:00

内 容：講義

テーマ：「いいところを見つけよう～非認知能力レンズを使って～」

講 師：三宅町立三宅幼稚園 園長 徳留 宏紀 氏

参加者：10名

感 想：知らず知らずのうちに認知能力に目を向けてしまったり、分かっているができていない部分を指摘してしまったり・・・改めて自分の言動を振り返る機会となった。



■株式会社KSBマーケティング・セールス

日 時：令和6年10月23日（水）9:30～10:30

内 容：講義

テーマ：「非認知能力」について

講 師：ALL HEROs 合同会社 代表 中山 芳一 氏

参加者：12名

感 想：非認知能力について、とても分かりやすく、後輩を育てる面でも、子どもを育てる面でも、こういった声かけをしていけばよいのかと大変勉強になった。



■全天満屋労働組合

日 時：令和6年11月5日（火）10:00～11:00

内 容：講義

テーマ：私の子育てこれでいいの

講 師：NPO法人ファミリーリングあゆむ

代表理事 飯田 純子 氏

参加者：6名

感 想：子どもとどう向き合うかを考える良い機会になった。真摯に向き合って認めることが大切だと感じた。また、子育て経験者の話を聞くことができ貴重な経験になった。



■株式会社アイダメカシステム

日 時：令和6年11月18日（月）14:00～15:10

内 容：ワークショップ

テーマ：相手の自己肯定感を育むかわり方を学ぼう

講 師：NPO法人ファミリーリングあゆむ

代表理事 飯田 純子 氏

参加者：12名

感 想：欠点と思われるような表現を、言い換えて良いように捉えることができることが参考になった。人をほめることの大切さを再認識できた。



■株式会社NICS

日時：令和6年11月22日（金）14:30～15:30

内容：ワークショップ

テーマ：子育てのイライラとうまく付き合う親になろう

講師：玉野市家庭教育支援チーム員 西宇 可奈子 氏

参加者：4名

感想：他の人のイライラを聞いて、同じ悩みを持っていることが分かって良かった。共感してもらえるのは嬉しい。



■トマト銀行従業員組合

日時：令和6年11月30日（土）10:00～11:00

内容：ワークショップ

テーマ：イライラとうまく付き合う方法

講師：NPO法人ほっとはあと 理事 隅田 浩美 氏

参加者：10名

感想：「まあいっか」を大事にして、イライラしたらその場から離れて深呼吸をすることを今日から実践したい。



■晴れの国岡山農業協同組合中央支店

日時：令和6年12月17日（火）17:15～18:15

内容：ワークショップ

テーマ：相手の自己肯定感を育むかわり方を学ぼう

講師：NPO法人ファミリーリングあゆむ

代表理事 飯田 純子 氏

参加者：16名

感想：気になる点を良い目線で見ることによって自己肯定感を高めていけることを知ることができた。



■美作グループ(美作マツダ自動車)

日時：令和7年3月6日（木）17:00～18:00

内容：ワークショップ

テーマ：コミュニケーション能力がアップするコツ

講師：NPO法人ファミリーリングあゆむ

代表理事 飯田 純子 氏

参加者：11名

感想：子どもと向き合えていると思っていたが、向き合う方法を見つめ直そうと思った。



■あそびとおもちゃの研究所あーとあーと

日 時：令和7年3月12日（水）9:30～11:00

内 容：ワークショップ

テーマ：非認知能力の育成と親子のコミュニケーション

講 師：NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん

代表理事 赤迫 康代 氏

参加者：4名

感 想：子どもたちの思いをちゃんと言葉に出してあげて、「自分是可以る」と感じるが増えるような手助けができたらいいなと感じた。



■株式会社三社電機製作所 岡山工場

日 時：令和7年3月21日（金）13:30～14:30

内 容：ワークショップ

テーマ：心と体に笑顔の食事

講 師：公益財団法人岡山県栄養士会 橋本 美由紀 氏

参加者：8名

感 想：簡単に食材を取り入れることができる「ちょこっとプラス」で気づけたことがあり、良かった。



■公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま

日 時：令和7年3月21日（金）14:30～16:00

内 容：ワークショップ

テーマ：いいところを見つけよう～非認知能力レンズを使って～

講 師：NPO法人子ども達の環境を考えるひこうせん

代表理事 赤迫 康代 氏

参加者：6名

感 想：非認知能力という今までと違う視点で自分の子育てを振り返ることができてよかった。今後も子どもとどのように向き合っていくかを考えるよい機会となった。

